

## 平成25年度 部局自己評価報告書

**Ⅲ 部局別評価指標****1 部局第二期中期目標・中期計画における特色ある取組の進捗状況と成果**

※評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

**(1) 教育に関する目標**

○重点的に取り組んだ計画（2-3 個）

中期計画 I-1-(1)-1

- ・教育情報学研究部・教育部における高度な大学院教育の充実を図るため、ISTU 等の高度情報型教育システムを活用する。

中期計画 I-1-(2)-1

- ・大学院教育を総合的に支援する先端教育支援室（仮称）の整備を進める。

中期計画 I-1-(2)-3

- ・e ラーニングによる学習システム活用を支援するために、先端教育支援室（仮称）におけるメディア教育支援部門の整備を進める。

○進捗状況と成果

教育情報学研究部・教育部における高度な大学院教育の充実を図るため、ISTU 等の高度情報型教育システムを活用し教育的な意義を再考する。

- ・部局の専任教員が担当する全講義（100%）において ISTU の活用を実施した。また、全学生教員が参加する研究発表会を ISTU にコンテンツ化し、ISTU を活用した研究交流・研究指導活動のふり返しを実施した。
- ・e ラーニングと教室学習を組合せたブレンディドラーニングのための様々な学習・教育支援機能（授業ビデオ配信、教材配信、レポート提示・提出、討論用掲示板、学習管理等の機能）をオンラインで提供し、授業評価等によりその教育的意義の評価を実施している。
- ・web による学生履修状況点検システムを構築し、教務担当教員および教務係事務員が常に学生の履修状況と成績状況を確認できるような環境を整備した。これにより、教育プログラムの水準が一定基準で保たれているかどうかを恒常的に点検することができ、学業に課題を持つ学生の早期発見、早期対応が可能となった。
- ・web で行う学生による授業評価システムを構築・実施し、その結果に基づいたふり返し作業として授業実践記録を全教員が作成した。これにより、大学院教育が学生の視点から適切であったかどうかの点検・改善が可能となった。

(2) 研究に関する目標

○重点的に取り組んだ計画（2-3 個）

・中期計画 I-2-(1)

1. 教育と情報に関する基礎的な優れた研究成果を、学術誌、学術書、国際・国内会議等に公表する。
2. 教育と情報を融合させた現場密着型の研究を促進する。

○進捗状況と成果

- ・教育と情報に関する研究、教育と情報を融合させた現場密着型の研究を推進してきた。それらの研究の成果を学術誌、学術書、国際・国内会議等で多数公表してきた。具体的には「A System for Reflective Learning using Handwriting Tablet Devices for Real-time Event Bookmarking into Simultaneously Recorded Videos」「超デジタル時代の「学び」」「The Value to Dance Practice of CG Derived from Motion Capture」「舞踊の学習を目的とした効果的な CG の検討」「Website support for persons with developmental disabilities」「eラーニングシステム使用時における定型発達者と広汎性発達障害者の指尖脈波、主観的負担の検討」「Computer-based Testing (CBT) とこれからの資格試験」等である。

○重点的に取り組んだ計画（2-3 個）

・中期計画 I-2-(2)

1. 部局内における研究資金等の配分システムを改革する。
2. 北海道、東北地方を中心とする高等教育機関との研究教育連携を推進する。

○進捗状況と成果

- ・部局内における研究資金の配分システム改革として、教員個人評価に基づく傾斜配分比率を高め、高評価教員への重点的配分を実現した。
- ・北海道、東北地方を中心とする高等教育機関との研究教育連携を推進している。具体的には、研究会・シンポジウムの共同開催（例：シンポジウム「大学と情報」開催）、共同研究の成果の学会・学術誌での公表（例：「教員養成系大学院における「クリッカーを活用した臨床観察学習」の効果」「手書きパッドを用いた授業リフレクション方法」「手書きパッドによる授業リフレクション支援のツール開発」）等を 24 年度中に計 10 回程度実施した。

(3) 社会との連携や社会貢献、国際化に関する目標

<p>○重点的に取り組んだ計画（2-3個）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画I-3-(1)</li> </ul> <p>1. 情報技術を活用して産官学連携プログラムの充実を図る。</p> <p>○進捗状況と成果</p> <p>1. 産学連携による教育情報システムの研究開発と商品化</p> <p>(i) 高等教育機関における授業改善等での活用を主たる目的とする教育情報記録提示システム（教授活動と学習者の反応を同時に記録し、授業改善に有効な重要時点資料を視覚的に提示するシステム）を企業と連携して開発・商品化し、継続販売している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)内田洋行、(株)フォトロン（クリッカーと映像記録の統合によるコミュニケーション学習支援システム）</li> </ul> <p>(ii) ICレコーダー内蔵デジタルペンの教育現場での有効活用に関する調査研究を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)学研ホールディングス（ICレコーダー内蔵のデジタルペンの使用が学習者の日常の学びに与える影響の調査研究）</li> </ul> <p>(iii) 板書による講義を対象とし、講師による授業の振り返りや受講生による学習を支援するためのインデクシング技術の開発を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NTTサイバーソリューション研究所（レクチャー画像からのナレッジ発見共有を促進するための運用モデルに関する研究）</li> </ul> <p>(iv) 手書きパッドによる振り返り支援技術の開発を進めている。</p> <p>2. 産官学連携情報技術活用プログラムに取り組み充実を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育情報学研究の成果を還元し多数の民間団体への貢献を実施：科学技術振興機構専門委員会委員長、セイコーエプソン社共同研究、サイエンティフィックシステム研究会活動推進会議委員、教育環境分科会企画委員、東日本放送番組審議会委員、日本サッカー協会公認A級B級コーチ養成講習会講師、等。</li> <li>・教育情報学研究の成果を還元し多数の地方公共団体への貢献を実施：仙台市教育研修センター運営懇話会アドバイザー、東北大学出前授業講師、宮城県教育委員会コーチング技術講習講師、宮城県教育委員会初任者研修講師、総合的な学習の時間のゲストティーチャー、仙台市教育委員会校長・教頭・管理職研修講師、放送大学客員教員、北海道教育委員会認定講習講師、宮城県学力向上パワーアップ事業講師、東北大学リベラルアーツサロン講師、発達協会実践セミナー講師、宮城県立高等学校外部評価委員等。</li> </ul> <p>○重点的に取り組んだ計画（2-3個）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画I-3-(2)</li> </ul> <p>1. 留学生の学習環境の充実を図るために、eラーニングを活用したメンタリングシステムを充実させる。</p> <p>2. 先端教育支援室（仮称）の国際教育支援部門の整備により、部局運営体制の充実を図る。</p>
--

○進捗状況と成果

先端教育推進室（学生支援部門，国際教育支援部門，メディア活用支援部門から構成）で下記の取り組みを進めている。

(1) 学生支援プログラム運用

・チューター養成プログラム運用

留学生を支援するチューターを育成するためのコンテンツを運用している。

・ティーチングアシスタント養成プログラム運用

授業での受講学生及び教員を支援するティーチングアシスタントを育成するためのコンテンツを運用している。

・Webによる授業評価システムを各授業で試行的に運用している。

(2) その他

・国際教育支援部門：チューターマニュアルを用いて、チューターを公募し、説明会を実施している。入学初年度の留学生対象の授業「日本語実践演習」を部局独自で通年開講し、日本語の習得が不十分な留学生の日本語力の向上を目指している。特にディスカッション能力およびレポート作成能力の向上に焦点を当てている。英語のみで行う授業” Basic theory of Educational Informatics”を開講し、留学生が受講しやすい環境を整えている。チューターによる留学生の就学支援を充実させ、留学生一人ひとりに応じて個別的なサポートを行っている。

・メディア活用支援部門：授業支援ツール（クリッカー等）を用いた授業支援の試行

**(4) 業務運営等に関する目標（業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供、施設設備整備・活用、環境保全・安全管理、法令遵守、その他）**

○重点的に取り組んだ計画（2-3個）

・中期計画 II

1. 業務プロセスを改革する。

○進捗状況と成果

・業務プロセス改革として、紙媒体での配布、人手による回覧を、電子媒体での配布、電子ネットワークによる回覧へと移行した。具体的には、事務から教職員学生向けの書類のうちの電子化可能なものを電子ファイル化して電子的に配付し、紙や印刷関連経費の抑制に継続的に取り組んでいる。また、部局内の教員向け回覧物のうちの電子化可能なものを電子ファイル化して部局教員の共有ディレクトリに格納するとともに教員用メーリングリストで配信し、紙や印刷関連経費の抑制に継続的に取り組んでいる。

・高度情報型教育・業務システム（非同期型eラーニング，オンラインミーティング，文書電子回覧，オンライン情報共有等）の運用により，教育，研究，運営を効率的に実施することが可能な環境を実現し，育児と仕事の両立を支援している。

○重点的に取り組んだ計画（2-3個）

・中期計画 IV

2. 研究・教育成果の発信を推進するために，情報技術を活用して学術情報の整備を充実させる。

・中期計画 V-1

1. 情報技術を活用した教育研究施設設備の充実を推進する。

○進捗状況と成果

- ・研究・教育成果の発信を推進するための情報技術活用として、電子化可能な成果の電子化と、東北大学データベースの積極的活用を実施した。
- ・教室授業自動収録システムの拡充、eラーニングコンテンツ簡易作成システムの整備、学会ポスター等作成用システム拡充、教材電子化システム整備を、目的積立金、部長裁量経費等を用いて実施し、情報技術を活用した教育研究施設設備の充実を推進した。

**(5) その他、部局第二期中期目標・中期計画に記載はないが、部局として重点的に取り組んだ事項**

卓越した教育研究大学を視野に入れた教育情報学の教育研究成果の還元

- ・創立 10 周年記念講演「生命と機械をつなぐ知」、記念シンポジウム「大学と情報」等の実施。
- ・創立 10 周年記念冊子発行。
- ・高校生を対象とした教育ロボット作製講座を実施し、教育用組み立て自律型ロボットの製作およびプログラミング学習の指導を行った。
- ・科学技術振興機構（JST）の専門委員会委員長として、卓越した理数科能力を発揮する小中高校生を対象とした合宿セミナー（サイエンスキャンプおよびアジアサイエンスキャンプ）のプログラム構築・評価のための検討・視察・調査を行った。